

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101436		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊南スマイル 南		
所在地	熊本県熊本市北区鶴羽田5丁目3番30号		
自己評価作成日	平成27年 2月 5日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療法人である。医療面においては協力病院・協力歯科もあり、協力体制が整っている。近隣の医療機関とも密接に連携を取りながら、本人様及びご家族様には安心してご利用頂いている。またご利用者様にとって楽しみである食事の食材については、当法人及び関連法人で育てた無農薬の野菜を使用することで、安心安全かつ旬の時期にご利用様に提供している。このことは食材費を下げることも出来る。施設設備建物においては、エコを重視し、太陽光発電システムや全熱交換地熱システムを採用することで、建物全体での室温調整が可能となり、温度差も無くなり、安全で健康的な環境を整備している(現在エアコンの使用なし)。結果節電効果となり、入居費用の低料金設定が可能となっている。ご利用者様にとっては費用の心配も軽減され、安心した生活を送ることができている。地域の自治会及び地域の子ども会との交流にも積極的に取り組んでおり、地域の一員となれるような施設作りを目指している。職員同士も連携を図り、チームケアの実践に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地熱利用換気システムを採用した建物となっており、年間を通して15~17℃に設定されています。部屋ごとの温度差もなく、安全で健康的な居住環境となっています。また当法人には農園があり、四季折々の無農薬野菜を栽培しています。そして、そこで採れた安心安全な新鮮野菜は、利用者の食卓を賑わしています。更にソフト面では、職員ひとりひとりに問題意識を持ってもらおうと、希望や能力に応じた7つの委員会を立ち上げ役割を明確にしています。オープン間もないこともあり、現在はその途上との事ですが、今後に期待が持てると思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームにおける施設の特性を考えながら、基本理念を作成し、実践に向けての取り組みを行っている。まだまだ発展途上の段階であるが、各委員会を立ち上げてそれぞれの役割の明確化を行っている。	基本理念は5項目から成り、職員も参加して作り上げている。実践については、まず職員に問題意識を持ってもらう事から始めようと、希望や能力に応じた委員会を立ち上げ、役割を明確にすることから始めている。現在は、その途中にあるとの事である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にも参加されている委員の方々の協力を得ながら、地域の方々と施設の方で定期的な交流会を開催している。今後は日常的な交流を行う関係作りに取り組んでいきたい。	事業所は、開所間もないこともあり、運営推進会議のメンバーでもある自治会長や民生委員の応援も得ながら、地域との交流に取り組んでいる。特に子供会との交流は、小学生が出し物を披露してくれるようで、利用者にとっても喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度の定期的な勉強会を開催し、運営推進会議を通じて地域へ発信している状況である。 また、地域の行事に参加したり、小学生の施設見学を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会議で発案された子供会との交流を行い、小学生との交流なども行っている状況である。	運営推進会議の外部からのメンバーは、自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員となっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組みなどについて報告し、質疑応答を行っている。また地域の情報を得る良い機会ともなっている。子供会との交流は、民生児童委員の方の発案ということであった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険における不明な点において連携を取り、介護保険の更新申請や事故報告書などの面で連携を行っている。また、運営推進会議のメンバーとして協力頂き、意見交換しながら連携している。	市担当者の運営推進会議への出席はないが、運営上分からない点や判断に迷う事があれば、その都度連絡を入れ、指導を仰いでいる。また、初めての实地指導も無事終了したということである。その他に、地域包括支援センターとの協力関係も築いている。	

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度全体ミーティングを行い、高齢者の方々や施設の運営方針など介護方法や認知症の方の特有な症状などについて定期的な勉強会を開催し、身体拘束や虐待に関して周知している。	事業所では、定期的に勉強会を行っている。勉強会の教材は、備え付けのマニュアルや外部研修の資料を使用しており、現在は主に管理者が講師を行っている。ただ、今後については安全管理委員会が担当することも検討している。また、玄関の施錠については、事業所が通行量の多い道路に面しており、これまでに危険なこともあって、対策案が見つかるまで一時的に昼間も行っている。尊厳と安全の狭間で、然るべきところに相談した結果、このような対応となっている。	施錠については、事業所が開所してまだ1年も経っておらず、利用者の環境に対する適応性や介護の方法等に工夫を凝らし、早く開錠できたらいいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、勉強会での周知徹底を行っている。また、周辺症状を誘発しないように、勉強会を開催し、認知症特有の症状や病名について周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護など外部研修へ参加し、勉強会での周知徹底を行っている。また、周辺症状を誘発しないように、具体的な事例を挙げてパーソンフッドを維持する関わりと低める関わりの様子を職員へ配布する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を二部作成し、説明と同意の了承を行い、管理者が契約者と事業者間での契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設でご家族の方に状況報告書を配布する際に、ご家族様の意向などを汲み取り、運営推進会議などの参加に関しても、ご家族の方へ参加して頂き、意見を汲み取りながら、業務に反映した活動を行っている。その他小さな意見にも耳を傾けるようにしている。	月に1度は、利用料の支払い等で家族の来訪がある。その際に「どんな小さな事でもいいからお気付きの点はありませんか？」「気になっていることはありませんか？」等声掛けを行っている。これまでに、ゴミ箱の件や衣類への名前書きなどで指摘を受け、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝朝礼を実施し、職員の方々より、業務に関しての意見を聞き取り、月に一度は定期的な全体会議を開催し、職員の方々への意見集約を行い、実践に繋げている。	日頃の朝礼の中で、職員からの意見の聞き取りを行っている。また定期的な全体会議では、職員が忌憚なく考えを発言できるように気づきシートを用い、意見及びその改善策についても、提案できるようにしている。職員からは、「管理者も友好的で、意見が言いにくい雰囲気はない」という話であった。	

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に関して、サービス残業にならないように残業手当を付与し、能力に応じて仕事ができるように、希望に沿った委員会を構成している。やりがいなどを持って業務にあたって頂く為にも、職員の方々の意向を汲み取りながら職場環境の調整・勤務希望等の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や外部での研修会への参加を促し、研修を受ける機会の確保に努めている。また、介護支援専門員の専門研修への参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署の訪問や施設見学に来設されて、意見交換やネットワーク作りを行い、サービスの質の向上に繋がる関係作りを行っていききたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設へ入居する前には、本人様へ面談を行い、身体の状態などをアセスメントし、入居の際に安心して生活ができるような支援体制を確保する為に、事前に情報の周知を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とも面談を行った後に、ご家族様とも面談を行い、本人様の聞き取りや、ご家族様の意向の確認などを行っている。また、契約時の段階で再度、入居に関しての留意事項について説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の意向確認後に暫定の介護計画書を作成・説明・配布してアセスメントを行いながらカンファレンスを繰り返し実施し、支援方法を見極めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の声に傾聴し、尊厳を第一に考え、生きがいを一緒に見つけ心穏やかに生活できるように支援している。個々の能力を活かし維持する上で、食事プレートを利用して、利用者様毎に食事後の役割伝達を実施し、スムーズに取り組める様支援している。		

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の意向やご家族様の意向を汲み取り、双方の関係性を構築できるように支援に努めている。ささいな事でも本人様・ご家族様に相談しながら連携を取る事で、信頼関係を築いていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の意向なども汲み取り、外泊時の希望などがある際には、積極的な支援を行っている。また、本人様が地域の行事にもなるべく参加できるように、積極的な支援を心掛けている。	地元で行われる夏祭りやどんどや、自治会が主催する漫談会などへの支援を行っている。また、馴染みの整体院も利用したり、知人が新年会に行こうと誘いに来られる利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間の往来に制限を設けず、利用者様同士が支え合いながら支援が出来るように職員が介入しながら円滑にコミュニケーションが出来る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去・転院する際には、次の施設や病院・診療所などへの支援を行い、スムーズに移行できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の記録を行いながら、計画的な介護計画を作成し、一人一人の意向を確認しながら、ご家族様とも面談を行い、担当者会議などを開催して、ケアに繋げた支援を行っている。	一日の過ごし方や心身の状態をリズム表として記録している。また、合わせてモニタリングとアセスメントを繰り返す中で、意向の把握に努めている。職員からは、会話の重要性と苑外活動での利用者の変化に目を見張るものがあったという話があった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際には、前任の介護支援専門員より、基本的な情報などを収集し、本人様とも面談を行ってフェースシートを作成し、暫定の介護計画書を作成して、日々の経過の記録を取りながら、カンファレンスを開催して、統一したケアの支援が出来るように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リズム表や、生活の記録・バイタル表に、一日の過ごし方や心身状態について記録を残している。普段と変化がある場合には、特記事項や申し送りノートに記載し、全員が周知できるよう努め、本人様の持つ残存能力を活かせるよう支援している。		

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者にて、状況報告書を作成し、課題や問題点の把握に努めている。ケア方法等に変化がある場合は、カンファレンスを実施し、必要がある際にはその都度介護計画書の更新を行い、ケアの統一ができるよう努めている。	情報を収集した上で、まず暫定の介護計画を作成し、様子を見るようにしている。1回の面談では、分りにくいことや環境の変化により、かなり変わることがあるとのことである。その後、カンファレンスを重ね、担当者会議や情報収集を行い、より現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録や、申し送りノート、日々の受診やケアについて記載し、特記事項などは蛍光ペンで囲うなど、スタッフ全員が周知できるよう工夫を行っている。又、個別に支援経過記録を記載し、モニタリングの際に経過を振り返る資料として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務を振り返る為にも定期的に全体ミーティングを行い、入居者の方の意向を集約し、業務の改善につなげている。施設のハード面の強みを生かし、入居者の方や職員もユニット間の行き来に制限を設けず、柔軟に対応できる取り組みをカンファレンスを通じて実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や民生委員の方々と連携を取りながら、地域の老人会や夏祭りへ参加し、地域の方々と交流が出来るような暮らしを支える支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携が取れるように必要時には書面にて状況報告書の提出を行っている。また、病院への受診介助を看護師が付き添ってDrへ日々の状況を報告している。	かかりつけ医受診、専門医受診とも家族の対応が基本となっている。それは、判断の必要性がある場合のことも考えてのことである。ただ、現在約8名の利用者が協力医をかかりつけ医としており、職員が送迎、受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態に関して、朝の申し送り、生活の記録やバイタル表、状況報告書などを活用して看護職・介護職の連携を図り、職員全体への周知に努めている。また、状態の変化時にはお互いに情報を共有している。		

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などには基本情報及び入居者情報を提供し、医療機関との連携に努めた支援を行っている。退院時には、お迎えの調整をご家族とも行いながら、入院中の状況把握に努め、看護サマリーなどの情報にてスムーズな受け入れに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化や看取りについての説明を行い、協力医療機関との連携を図りながら支援を検討する旨をお伝えしているが、重度化した際には、ご家族様の意向の変化等もあり、その都度、本人様やご家族様の意向を汲み取っていくようにしている。	事業所は、重度化及び看取り介護に関する指針を作成しており、入居に際し本人・家族に説明の上、同意書を取り交わしている。同意書は本人・家族の意向に変化が生じた場合の対応についても触れられている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体会議及び勉強会を活かし、急変時や事故発生時の対応の仕方について学んでいる。また、各ユニットに1名の看護職員を配置し、必要な際には訓練・指導を行っている。職員には緊急連絡網を配布し、連絡体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の全体会議及び勉強会を活かし、災害時の対策及び対応策を検討している。また、避難訓練は夜間を想定した訓練を行っており、避難場所の確認も行った。	避難訓練は年に2回行われている。2回とも夜間を想定して行っている。緊急時の避難場所は小学校となっているが、火災時の避難場所は、近くの消防詰所に決めている。また毎月の全体会議でも災害時の対応について話し合いを行っている。備蓄については、飲料水、缶詰、ラーメン等となっている。	防災アドバイザーは、実際の災害を前に訓練以上の力を出すことは難しいと言っています。訓練に取り組む姿勢を今一度確認して欲しいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の朝礼でも、ケアの方法などについての伝達などを行い、定期的な勉強会も開催し、権利擁護等の勉強会を行っている。尊厳の保持を大切にする為、基本理念でも尊厳を第一に考えた支援を心がけている。	基本理念の一節にも、”利用者様の声に傾聴し、尊厳を第一に考え、自尊心を傷つけないよう支援する”と謳われている。管理者からは人間らしい関わりの大切さ、職員からは人格の尊重を最優先にケアに取り組んでいるが、安全との狭間で悩むこともあるとのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的ではなく、本人の意見を尊重したケアに努めている。意思表示が困難な方には、ご家族にも情報を得たり、表情や行動から情報を得ながら自己決定ができるよう支援を心がけている。		

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の意向を汲み取りながら、本人様の意向や想いを尊重する為にも、一日の始まりには業務の流れを組み立てながら、職員間で計画的に調整できるように柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアでは洗顔等も行い、髭剃りや衣服の選択など、ご本人様と一緒に身だしなみに気を付けて支援しています。時には爪にマニキュアを塗ったり、おしゃれの支援も行っています。また、毎食後には口腔ケアを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、食事の下ごしらえ、皮むきや味付けに味見など、スタッフと一緒にできることを支援しています。また、食後にはお膳拭きや食器洗い等を生活リハビリの一環として入居者の方にも取り組んで頂いている。	法人には農園があり、専属の職員が四季折々のいろいろな野菜を栽培している。そして、そこで採れた新鮮な野菜は、利用者の皆さんの食卓を賑わしている。また、食事が楽しくなるように、個別対応や生活リハビリの一環としての役割当番制なども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供を行い、主食のご飯類に関しては、柔らかめの提供を行い、状態に応じて2度炊きの提供も行っている。副食についても刻み食での提供を行っている。栄養のバランスを考えた食事メニューを作り、バイタル表・リズム表に毎食の摂取量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実践し、口腔内の清潔保持の支援を行っているが、拒否される方に関しては緑茶での飲茶を促し、カテキンによる抗菌作用を活用した支援を検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	頻回に尿取りパットを使用する際には、施設にてオムツ類の管理を行い、排泄パターンを確認し排泄支援を行っている。また、おむつの委員会を設置し、担当職員と管理者・計画作成担当者と共にオムツ使用の削減に努めている。	排泄が完全に自立している利用者はおられないようである。事業所では、リズム表を用いて利用者の一日の過ごし方を把握しており、時間による声掛けや、立ち上がろうとする、落ち着きがなくなるなどの、ひとりひとりのサインをもとにトイレでの排泄を支援している。	

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リズム表にて最終排便を夜勤帯でチェックし、便秘予防の為に食物繊維の多い食材（イモ類、さつまいも、里芋等）の提供を行っている。また、水分補給に努め、運動や腹部マッサージ・ホットパックでの腹部の保温等を行い、状態に応じてかかりつけ医へ報告し、内服薬での排泄支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方の希望を踏まえて週に2回の入浴支援を実施し、個別浴にて入浴の支援を行っている。個々の状態に応じてリフト浴での支援も行い、立位が困難な方の入浴支援も実施している。	入浴方法は個別浴となっており、利用者の状態によってはリフト浴でもできるよう設備されている。利用者の中には、同性での介助を希望される方もおられることで、希望に添った支援を行っている。また、入浴拒否の対応については、職員がお互い協力しながら対応している。	現在は週に2回の入浴支援を行っているようです。ただ、必要な時にはその都度支援しているそうです。これから暖かくなり、夏場ともなれば、入浴の希望も増えるのではないかと思います。そんな時は、希望に添った支援をお願いしたいと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を考慮し、日々の生活リハビリの一環から生活のメリハリを保ち、規則正しい生活が出来るような支援を行っている。また、テレビ体操などを活用したりリハビリ訓練を行っている。定期的な受診により、夜間の入眠状況などもDrへお伝えし、必要であれば内服薬での入眠を促した支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後には薬の説明書をカルテに綴じて、職員の方へ周知できるようにコピーした説明書をファイルに綴じて情報の共有に努めている。また、受診後に生活の記録へ蛍光ペンで困んだ記事を記載して周知しやすいような取組も行っている。また、内服薬の種類により、食前・食後薬がある為、間違いのないようにチェックし、バイタル測定にて状態の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での楽しみや日々の暮らしの中で、個々の能力に応じて、食器洗いや洗濯物干し等を行い、本人様の残存機能を活かした支援を行っている。また、気分転換の為に施設周辺へ職員と散歩に出向いている。		

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出支援は行っていないものの、行事など企画を立てて、地域の夏祭りへの参加や買い物レクリエーションへの参加・老人会やどんどやに初詣・地域サロンへの参加を行っている。ちょっとした気分転換では、職員と施設周囲の草むしりなどを行いながら気分転換を行っている。また、季節的な外出支援にも努めている。	地域で行われる夏祭りやどんどや、老人会また地域サロンへの参加などを支援している。その他、買い物や初詣などの支援もおこなっている。	職員の話では、気分転換にすぐそばの神社やグラウンドに出かけることがあるそうです。これからも気候も良くなりうぐいすの鳴き声も聞かれる頃となります。可能な時には、今まで以上に外出を機会を増やす支援に取り組んでほしいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度の金銭管理を行い、必要なものがある時には預かり金を管理し、ご本人様及使用できるようにしています。病院受診の支払いなどにも使用し、施設で消費する食材について、入居者の方と一緒に買い物へ行くなどをして使えるような支援を行っています。(買い物ツアーのレクリエーションを行っています。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で電話したり、取り次いだりの支援を行っています。また、本人様の状態を状況報告書としてご家族様へお渡ししています。また、本人様から、ご家族様への年賀状を出す支援を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域交流スペースを中心に両サイドにユニットの配置を行い、引き戸を開ける事で開放感ある空間作りが可能となっている。トイレの入り口ドアに関しては、擦りガラスの使用となっている事で、他の入居者の方が利用されている事が認識できて混乱しないような空間作りになっている。	事業所は、地熱利用換気システムを採用した建物となっており、年間を通して室温がほぼ一定となっている。この寒い時期でも寒暖の差を感じることはなく、快適な室内環境となっている。また、利用者が集われる共用空間は、落ち着いた色調で仕上げられており、吹き抜け構造の天井からは、自然光が差し込むように設計されている。南・北それぞれのユニットには、次亜塩素酸加湿器が配置されている。	

グループホーム菊南スマイル 南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルには一人ひとりの椅子を利用できるような環境作りを行い、ユニット毎にソファも配置して、誰もがくつろげる様な環境作りを行っている。DVDレコーダーも各ユニットに設置して、好まれるような音楽番組を録画視聴している。交流スペースにもソファを設置して音楽鑑賞が出来るような環境作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋個室使用での対応となり、本人様の状態に合わせた間取りの配置を行っている。入居時には使い慣れた家具類の持ち込みもお願いし、馴染みある空間作りを行っている。希望に応じて冷蔵庫やTVの持ち込み等もお願いしている。	ベッドについては事業所の方で用意されており、寝具及び家具・日用品については、これまで使い慣れたものを持参して頂くように話している。部屋を見せてもらいましたが、生活感のあるとても明るい雰囲気であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには余分な物を置かず、パリアフリーの空間を活かして、安全に生活できるような空間作りに努めている。また、除菌できる加湿器を設置し、環境にもやさしい地熱床システムを取り入れて、太陽光発電の電力も活かした生活環境を配備している。床面はクッション素材の床を配備している事で、転倒時の骨折リスクを軽減できる環境作りに努めている。		